

# 釧路湿原自然再生協議会

## ニュースレター News Letter



発行日:平成19年1月23日

<http://www.kushiro-wetland.jp/>

編集・発行:釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

平成18年12月21日(木)第11回釧路湿原自然再生協議会が開催されました。会議では、第3期協議会構成員の公募結果について報告があり、委員の互選により第2期に引き続き第3期の会長に辻井達一委員が選任されました。



▲第11回釧路湿原自然再生協議会の様子



▲引き続き第3期協議会の会長に選任された辻井達一委員



▲引き続き第3期協議会の会長代理に選任された中村太士委員

### 【第11回協議会 出席状況】

構成員	個人	21/59名
	団体	24/40名
	オブザーバー	1/13名
	関係行政機関	10/11名
合計		56/123名

### 【第11回協議会 開催概要】

「第11回釧路湿原自然再生協議会」が平成18年12月21日(木)に釧路市観光国際交流センターで開催され、構成員123名のうち56名(個人21名、団体24団体、オブザーバー1団体、関係行政機関10機関)が出席しました。また、その他一般の方も多数傍聴されました。

会議の冒頭で、第3期協議会構成員の公募結果について報告があり、委員の互選により、第2期に引き続き第3期の協議会会長に辻井達一委員、会長代理に中村太士委員が選任されました。

その後は辻井会長の進行で議事が進み、協議会への寄附と収支報告、懇談会の開催報告、実施計画作成の報告、各小委員会の開催報告に引き続き、協議会主催のシンポジウムの開催について協議されました。

#### ■協議会への寄附と収支報告

協議会として寄附をお受けし、  
・自然再生の取り組みを普及する際などに寄附金をその資金の一部に充てること  
・寄附して下さった方に寄附金の使途を報告することが確認されました。

#### ■懇談会の開催報告

辻井会長と7月26日の懇談会で座長を務めた新庄委員から、懇談会で挙げられた意見が報告されました。今後、懇談会での話題、開催場所および時間について、ご意見、ご要望を事務局に提出してもらい、それを踏まえて次回の懇談会の開催について検討することになりました。

#### ■実施計画作成の報告

事務局から、これまでに協議会で協議を行い了承された5つ

の釧路湿原自然再生実施計画の作成状況が説明されました。実施計画を主務大臣および北海道知事に送付した結果、助言はありませんでした。

#### ■小委員会開催報告

第10回協議会の後に開催された第7回再生普及小委員会、第8回土砂流入小委員会および第8回旧旧川復元小委員会での協議内容および挙げられた意見について、各小委員会の委員長、あるいは委員長代理から報告されました。

#### ■シンポジウムの開催について

自然再生、あるいは、釧路湿原そのものに対する関心を高めることなどを目的として、平成19年2月に協議会主催のシンポジウムを開催することになりました。

会議では、シンポジウムの開催に向けた活発な議論が行われ、  
・視覚に訴え、多くの人が見て楽しみ、理解できるようなポスターを準備したい  
・臨場感を持って話を聞いたり、指し示しながら議論できる釧路湿原の大きな写真を用意したほうがいい  
・知識・情報を共有しながら話を聞く、あるいは、意見を述べることでできた方がいい  
・シンポジウムの後にフィールドツアーを行うなど、動きのあることを行う方が望ましい  
といった意見が寄せられました。

今後、シンポジウムの開催に向けたアイデアを事務局に提出してもらい、会議で挙げられた意見に加えて整理し、1月中旬を目処にシンポジウムの原案を作成することになりました。

### contents

- 第3期 釧路湿原自然再生協議会の運営について
- 協議会への寄附と収支報告
- 懇談会(7/26)の開催報告
- 実施計画作成の報告
- 第10回協議会以降の小委員会開催報告
- シンポジウムの開催について

# 第3期協議会の運営、協議会への寄附と収支、懇談会(7/26)の開催、実施計画作成、小委員会開催についての報告と、シンポジウム開催について協議しました。

## 第3期協議会の運営

釧路湿原自然再生協議会の設置要綱第5条に基づく委員の募集を、平成18年10月13日から10月27日の期間で行いました。その結果、個人委員3名が退会し、新規は以下のとおり個人3名、団体5名の応募がありました。これにより、第3期(平成18年11月～平成20年11月)の構成員は、個人59名、団体40団体、オブザーバー13団体、関係行政機関11機関の計123名となりました。

### ■新規 個人(3名)

(敬称略、五十音順)

氏名	所属
石川 孝織	釧路市立博物館
杉山 伸一	環境カウンセラー(市民部門)
西川 潮	独立行政法人 国立環境研究所 環境リスク研究センター

### ■新規 団体(5名)

(敬称略、五十音順)

団体名	代表者名
阿寒国際ソルセンター(グルス)	主任 太田 幸
鶴居排水路維持管理組合	組合長 瀬川 勝巳
塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長 金子 正美
北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤

## 協議会への寄付と収支報告

平成18年7月に、中小企業金融公庫 釧路支店から協議会に50,000円の寄付がありました。

この使途としては、釧路湿原における自然再生の取り組みを普及する際などに、寄付金を普及のための資金の一部に充てることなどを検討することになりました。その際、資金の一部が寄付金によりまかなわれていることを明記し、寄付して下さった方に寄付金の使途を報告することになりました。

科 目		金額(円)
第2期繰越額(H18.12.21現在)		637,400
第3期(H18.11月～H20.11月)		
1収入の部	寄付金(中小企業金融公庫 釧路支店平成18年7月)	50,000
	当期収入合計	50,000
2支出の部	当期支出合計	0
	当期収支差額(H18.12.21現在)	50,000
	第3期繰越額(H18.12.21現在)	687,400

## 懇談会(7/26)の開催概要

第10回釧路湿原自然再生協議会(H18.5.9)で発案された「懇談会」が平成18年7月26日(水)に釧路地方合同庁舎共用第1会議室で開催され、地域住民や協議会構成員など多数の方が出席されました。

会の冒頭で、懇談会の発案者である辻井会長からご挨拶があり、その際、円滑な進行を行うための座長として釧路国際ウェットランドセンターの新庄久志さんが推薦されました。

その後は、新庄さんの進行により会が進み、次のような意見が挙げられました。

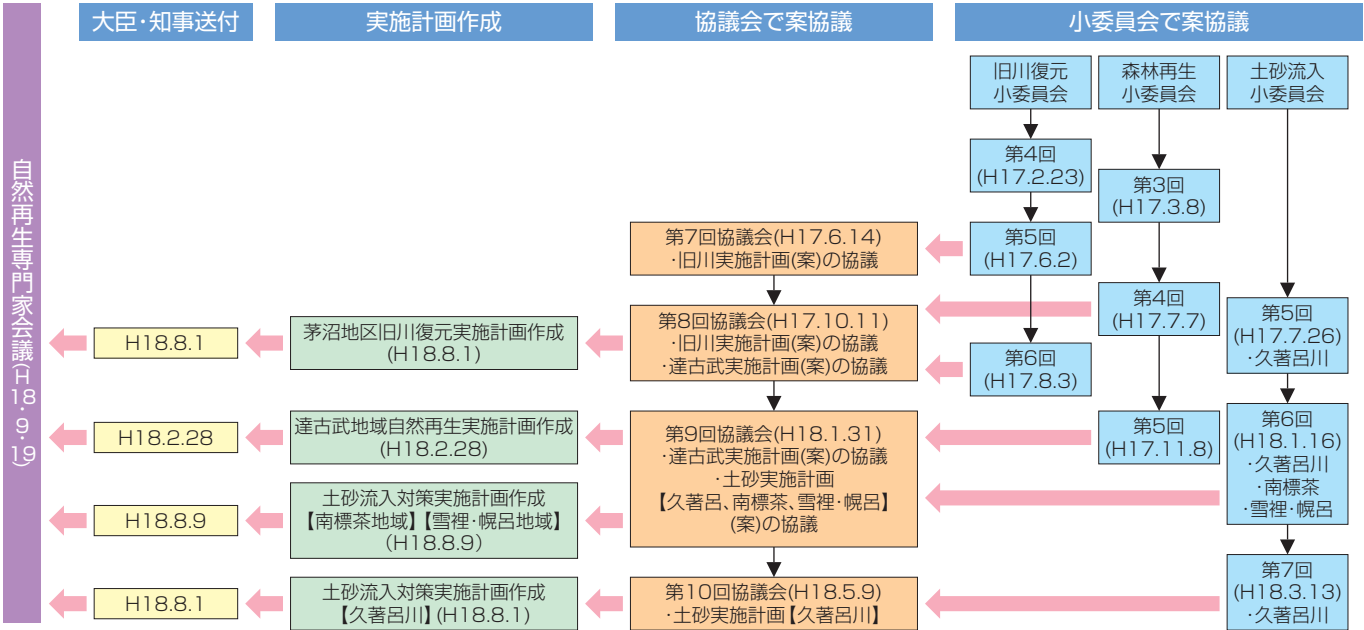
### ●懇談会で挙げられた主な意見

- ・まずは湿原の現状について情報交換して、分かっていることと分かっていないことについて議論すべき。
- ・湿原の変化についてはある程度把握されているが、ベースとなる状態が曖昧なのではないか。情報の共有化を図るべき。
- ・把握するための調査と並行して、手遅れになる前に対策を行っていく必要がある。
- ・まずは血が出ているところを止め、その上で昔のような状態に戻してやる必要がある。
- ・湿原の最近の急激な変化は、社会情勢の劇的な変化による影響が大きい。
- ・自分たちのライフスタイルを見直す必要がある。
- ・昔からのことを知っている地元の方の意見をよく聞いた方がいい。
- ・開催にあたっては、湿原の変化などをよく知っている地元の方に参加してもらうために、時間と場所に配慮すべき。

## 実施計画作成の報告

これまでに、釧路湿原自然再生協議会では5つの実施計画(案)について協議され、それらについて協議会として概ね了承されました。

自然再生推進法第9条に基づき、各実施者により協議会で協議を行い作成した釧路湿原自然再生実施計画を主務大臣および北海道知事に送付しました。それを受け、専門家から意見を聞く「自然再生専門家会議」が平成18年9月19日に東京都内で開かれました。その結果、主務大臣および北海道知事からの助言はありませんでした。



■釧路湿原自然再生実施計画作成状況

実施計画名	実施者	実施計画作成日	主務大臣・知事送付日	自然再生専門家会議
達古武地域自然再生実施計画	環境省釧路自然環境事務所	H18.2.28	H18.2.28	H18.9.19
茅沼地区旧川復元実施計画	国土交通省北海道開発局釧路開発建設部 (以下、釧路開発建設部)	H18.8.1	H18.8.1	H18.9.19
土砂流入対策実施計画【久著呂川】	釧路開発建設部、北海道釧路土木現業所 他	H18.8.1	H18.8.1	H18.9.19
土砂流入対策(沈砂池)実施計画(南標茶地域)	釧路開発建設部、標茶町、南標茶地区排水路維持管理組合	H18.8.9	H18.8.9	H18.9.19
土砂流入対策(沈砂池)実施計画(雪裡・幌呂地域)	釧路開発建設部、鶴居村	H18.8.9	H18.8.9	H18.9.19

# 第10回協議会以降に開催された小委員会開催概要

第7回再生普及小委員会、第8回土砂流入小委員会、第8回旧川復元小委員会の開催報告が行われ、情報の共有が図られました。

## 第7回再生普及小委員会

H18.5.11(木) 18:00~20:00 釧路地方合同庁舎

- ・「釧路湿原に関する環境教育ワーキンググループ」については、環境教育に関するガイドと人材リストの作成、それらの学校への配布という当初の目標を達成したため、第6回小委員会で活動を一時休止するという話が出た。しかし、新たな事務局、ワーキングの構成メンバー、内容などを再構成することを前提に話し合いに入ることになった。
- ・「再生普及行動計画ワーキンググループ」が主体となり、2005年から具体的な取り組みの報告書をまとめている。2005年の報告書は、1,000部印刷して各所に配置した。2006年も報告書を作成する予定である。また、2007年度に向けた具体的取組の募集、企画も始めている。

## 第8回旧川復元小委員会

H18.9.15(金) 13:30~15:30 釧路地方合同庁舎

- 【事業実施に向けた考え方について】
- ・目指すところがはっきりしているのであれば、もっと早いタイムスケジュールで実施した方がいいという意見が大半を占めた。
  - ・茅沼地区は色々な意味で注目されている場所なので、物理環境が戻ったということだけではなく、生態系がどのように回復したのか分かるように事前事後の評価をしっかりと行ってほしい。
  - ・遡河性魚類の迷入対策が必要である。
- 【自然環境への配慮事項について(移植について)】
- ・希少種だけではなく、この地域に普通に生育生息している種が絶滅しないように実施した方がいい。
  - ・工事により現状の植生を破壊しないように、細心の注意をはらって実施してほしい。
  - ・移植は、極力専門家の意見を聞きながら実施してほしい。
  - ・流域全体の中でこの茅沼地区を位置づけ、流域の負荷を生産源で抑えていく対策を同時に進めていく必要がある。

## 第8回土砂流入小委員会

H18.7.26(水) 13:30~15:30 釧路地方合同庁舎

- 【河道安定化対策の実施の考え方について】
- ・支川の中久著呂川流入部で落差を生じているので、落差工の構造に工夫が必要になる。また、支川の四号川では河岸侵食・河床低下が進んでいるので、対策が必要になる。
  - ・実施の必要がある場合は一気に実施してしまわないと、逆に下流側が侵食される恐れがある。
  - ・河川の線形がカーブになっている部分と落差部が重ならないように落差工の配置を再検討した方がいい。
  - ・平成19年度から落差工等を整備していく
- 【湿原流入部土砂調整地の実施の考え方について】
- ・自然のものと成因が異なるのであれば「人工ケルミ」という表現にこだわる必要は無い。
  - ・「人工ケルミ」の目的は土砂の捕捉ということで共通の認識になっている。
  - ・遊水地の条件により新たな生態系が形成される。土砂を数十年に1回取り除く計画であれば、数十年間維持される生態系について検討しておいた方がいい。
  - ・平成19年度に人工ケルミから試験的に着手する

●:会長 ●:委員

- 「人工ケルミ」の補足説明をお願いしたい。
- 目指している機能は、洪水のときに流れてくる土砂の大半を構成している、水の濁りの成分になっている細かい土砂を捕捉することである。
- 水を堰き止める部分のかたちが自然界の「ケルミ」に似ているので、「人工ケルミ」という名称をつけたが、機能をうまく表現できるのであれば別の名称でもいいと思う。

# シンポジウムの開催について

協議会主催のシンポジウムの開催について提案があり、意見交換が行われました。その結果、平成19年2月を目途に、協議会主催でシンポジウムを開催することになりました。

## ●シンポジウム開催の目的

- ・自然再生の取組みの現状、取組みの意義、今後の展望について、地域住民に広く周知し、地域における共通認識を形成する。
- ・これまで十分検討が行われており、順応的管理手法を前提に、今、一歩踏み出すときであることを伝え、今やるべきことを語り合う。
- ・湿原の保全・再生のために努力している身近な人々の地道な活動を知ってもらい、より多くの人々の参加を促す。

## ●シンポジウムの構成案 1) 基調講演 2) 取組み報告 3) パネルディスカッション

- 1) 釧路湿原の価値、湿原が持つ様々な機能・素晴らしさ、ラムサール条約登録からこれまでの歩みについて有識者から基調講演をいただく。
- 2) 釧路湿原の自然再生に取り組まれている個人・団体から、“これまでの取組み概要”、“取組みに当たっての地域への要望”、“今後の展望”などを報告していただく。
- 3) 基調講演者、取組み報告者をパネラーとして迎え、釧路湿原の自然再生について幅広く意見交換を行う。

## ●シンポジウムの開催に関する意見

●:会長 ●:委員

- 釧路市およびその一帯で、自然再生および釧路湿原そのものについての関心が必要でも高くない。また、情報として広がり欠けている。このシンポジウムによりできるだけ関心を高め、また、我々自身も様々な事例報告などを通じて湿原について考え直す機会にした方がいい。
- パネルディスカッションや事例報告では、小委員会などからも報告していただいで、それについてディスカッションをするというのもいいと思う。
- 協議会の皆さんには、講演や事例紹介についてアイデアを出していただきたい。できるだけ色々な事例が出てきた方がいいと考えている。
- 再生普及小委員会では、釧路湿原の自然再生に関するポスターを9枚くらい作り、これを観光施設やシンポジウムの会場等に掲示したいと考えている。また、PDFにしてCDで提供するなど、具体的にその計画を進めたいと考えている。
- 言葉で言われてもなかなか浸透しない。辛抱強くやるしかないが、目に見える形にして、子供達にも見て楽しんでもらえるように多様性についても考えている。
- 3月に入ると色々忙しくなるので、シンポジウムは2月中ということになると思う。それに間に合うよう頑張っていたいただきたい。
- インドで環境に関するポスターの募集をしていたので、インド全州の良い作品が集まったものをもらってきた。子供が書いた絵で、田舎の風景を描いて森林伐採をしたらこうなったという絵や、街中で川が汚れた状況を子供らしく描いたものもあった。実に変化があった面白かった。視覚に訴えるというのは非常に分かりやすいと感じた経験であった。
- ビジュアルに表現するのは重要だと思う。釧路湿原では、解像度の高い航空写真を撮影している。環境教育として、床に航空写真を貼って子供達に虫眼鏡を持たせて歩かせるということをやっている。そういうコーナーを作ったら面白いと思う。相当解像度が高い写真なので、かなり大きくすることもできる。スケールは色々設定できると思う。
- 非常に面白いと思う。環境省のウトナイ湖野生鳥獣保護センターにも大きな写真があって、その上を歩けるようになっている。子供でなくても面白いと思う。自分の家がどこにあるかも分かる。琵琶湖博物館にも大きい写真があって、大人も子供も「自分の家はここだ」と言って楽しめ、人気がある。
- 今の話はすごく良いと思う。この協議会でずっと言われてきたように、流域全体で考えたり問題点を共有するためにも、画面上で見ると実際に指をさしながら議論できた方がいい。色々な問題点を出し合うためにも、持ち運びできて大きなところで皆で議論できる共通のものがあると良いと思う。
- 懇談会などでも、色々なテーマについて議論する際、そこに共通の絵があるというのは良いと思う。大きな写真は、色々な議論をする際にとっても良いツールになると思う。
- 釧路湿原には1970年代の写真もあるので、比較のために1970年代の写真もあればいいと思う。そうすることで、ハンノキ、河川流路、農地がどのように変わったのかが見ることが出来る。子供やお年寄りに見せる際には、大きく印刷して見せる方が説得力があると感じている。
- 大変良いアイデアだと思う。あとは費用の問題になるかもしれないが、事務局とも相談させていただき、共有できる材料として、あるいは、視覚的に納得できる議論の材料として考えたいと思う。
- オーストラリアのネイチャーセンターでは天井から画像を投影していた。必ずしも印刷しなくても、床に画像を投影することも可能だと思う。
- シンポジウムについては、開催する際、開催に関する宣伝が単発に出て、行事も単発に終わる、ということになりがちである。このワンダグリンダの内容は一部の新聞紙上で連載され、紹介されている。それが随分好評で、こういったことで自然再生に参加できるのかと理解する良い機会になっているように思う。
- シンポジウム開催までの間、どこかの紙面を借りてシンポジウム開催に向けた紙面シンポジウムのような連載を仕掛け、毎週紹介する仕組みとしてはどうか。それを続け、「そしていよいよ明日開催!」のような宣伝の仕方がいいと思う。あるいは、テレビシンポジウムなど地域の人の目に付きやすいメディアを使うことも考えられる。
- シンポジウムを開催した後は必ずフィールドツアーを行うなど、少し動きのあることを行うことができれば良いと思う。
- 開催するまでの間に知ってもらうための手法をとった方が効果的だという意見で、まさにその通りだと思う。今日も報道関係者が取材に来ていると思うので、取り上げてくれると良いと思う。取り上げてもらうための仕掛け、というのも大変良いアイデアだと思う。
- 現場を見学に行くという話があったが、そういう動きがあると良い。シンポジウムや講演会では、座って話を聞いただけになる。参加者が黙ってじっとしているよりは、1回でも良いので何か発言したり、意見を言えたり、身体を動かして参加してもらえると、充実感を持てると思う。
- 知識・情報を共有しながら話を聞く、あるいは、意見を述べることでできた方がいいという意見だと思う。
- 講演や事例報告の話題、分野について、何かアイデアがあればそれを事務局に提出していただきたい。それを事務局で整理して、今日いただいたご意見も加えて基調講演や取組み報告について検討したい。パネルディスカッションについても具体的な方法を検討したい。
- 最初のポスターに関するアイデアも、ポスターセッションにするのか、そのまま掲示するのか、それもシンポジウムの内容の1つとして検討したい。
- 釧路湿原を大倍率に拡大した画像を用い、臨場感を持って話を聞いたり、ポイントを指し示したりできるようにする、というアイデアについても事務局と相談させていただきたい。
- 開催直前に提案されても取り込めないで、提案は早めをお願いしたい。1月の半ばくらいまでには原案を作る必要がある。あとは事務局と相談させていただきたい。できるだけ参加しやすくして興味を持てるような、満足感を持って帰ってもらえるようなシンポジウムの構成を考えることにする。

資料の公開方法 委員会で配布された資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。  
ホームページアドレス <http://www.kushiro-wetland.jp/>

ご意見募集 釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。  
電話・FAX・Eメールにて事務局まで御連絡ください。

## 釧路湿原自然再生協議会ニュースレター No.11

【編集・発行】 釧路湿原自然再生協議会 運営事務局  
【連絡先】 TEL(0154)23-1353 FAX(0154)24-6839  
E-mail: info@kushiro-wetland.jp